

令和元年度第1回三重県医療審議会健やか親子推進部会が出された主な意見

(1) 「健やか親子いきいきプランみえ(第2次)」の中間評価について

①重点課題1 切れ目のない妊産婦・乳幼児への保健対策

(委員) 乳児死亡と幼児死亡について、大きく減っているが、減った要因は何だと考えているか。

(事務局) 事故が多いということで、産婦人科医会さんにも協力いただきながら、事故予防の取組を進めており、その結果もあり減ってきていると思われます。

(委員) 1歳6か月健診での麻疹の1回目の予防接種が95.1%ということだが、やはり1回目だけではなく2回目の接種率も大事ではないかと思う。できれば2回目の接種率も95%を確保できるよう取り組んでいただければと思う。

(委員) 不妊治療については、仕事と不妊治療の両立についての取り組みも進めてもらっているので、いい方向に動いていけばと思う。

(事務局) 今年、不妊治療中の方1,000人近くからアンケートを取らせていただいたが、本当に切実な意見が書かれていた。相談先として県の不妊専門相談センターの利用もまだまだ少ないので、開設時間の問題や周知など取組を進めたいと思います。

②重点課題2 学童期・思春期から成人期に向けた保健対策

(委員) 梅毒については、今までほとんど見たことがなかったが、おそらく海外からの観光客の影響もあり非常に増えている。しっかり見ていかなければならない。

③重点課題3 子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり

(委員) 住んでいる地域で子育てをしたいと思う親の割合について、どうしたら上がると考えているか。

(事務局) やはり、安心して子どもが産み育てられるようなサービスが充実しているところが、住みたいと言われる地域になるので、自分たちは母子保健サービス、子育て支援のサービスを充実させていくことがそこにつながると考えています。

④重点課題4 育てにくさを感じる親に寄り添う支援

(委員) CLMについて、75%まで上げるとなると5歳児健診を実施している市町にも広めていくことになるので、手をつないでやっていかなければならないと思う。

(委員) 三重県は児童精神科医が少ないので、行政に手を打っていただきたいと思う。

⑤重点課題5 妊娠期からの児童虐待防止対策

(委員) 虐待については、自分の市でも年々通告件数が増えているが、いかに母親を支援していくかが重要だなと感じている。

(委員) 虐待には親からの愛情不足の負の連鎖というのが大きな問題ではないかと考えている。また、スマートフォンなどに依存し、親と子の接触の機会が減っている気がするので、こういう事も長い目で見ると虐待の一因になるのではないかと思う。

(委員) 虐待の件数を見ると、地域差も大きいのではないかと思う。また、内容を見ると、ネグレクトが多くなってきているように思う。

(委員) 自分は保健師だが、病院などはなかなか家庭に入れない中で家庭に入れる唯一の職種であり、虐待の第一発見者になり得る職でもあると思う。健診の未受診の中にも虐待が隠れているということもあるので、常日頃から虐待ということ意識しながら活動している。

(事務局) 外国につながる家庭に対するケアも重要であると考えています。

(2) 健やか親子いきいきプランみえ(第2次)の指標の見直しについて

(委員) 予防接種関係で、現状予防接種を全く受けていない人がどれくらい各市町でいるのかが分からないので、全く受けていない人の数を指標に入れていただければと思う。また、HPVワクチンの接種状況についても追いかけていていただきたいと思う。

(委員) 医療的ケア児に対する医療、福祉、教育などの取り組みについて見る一つの指標として、通学・通園している人工呼吸児の数を参考指標か何かには是非入れていただければと思う。

○今後の対応方針

いただいた意見は、「健やか親子いきいきプランみえ(第2次)」の今後の取組において活用するとともに、計画の中間評価と見直しの参考とします。